わいわい子ども食堂 通信

ご支援に感謝!!
いつもありがとうございます

あいち子ども食堂ネットワーク様

各子ども食堂へ配付されました。
とれたての旬のリンゴをいただきました。







フードバンク愛知様





大量のヤクルトを
いただきました。
子ども食堂の利用者
フードステーションに
来た子どもたちに配布できました。

ご案内

わいわい子ども食堂と
代表杉崎のインタビューが掲載！



中日新聞ビジネス局（WEB）
マーケティングマガジン
APPROACH
「わいわい子ども食堂」から見える
名古屋市北区の人をつなぐ」文化
https://adv.chunichi.co.jp/adfile/nagoya_love33/





発刊元：**わいわい子ども食堂プロジェクト**
構成団体：北医療生活協同組合・社会福祉法人・名北福祉会・暮らしと法律を結ぶホウネット
わいわい子ども食堂

子ども食堂　自主学習会

10月8日　自主学習会として、小さな学習会を行いました。

わいわい子ども食堂プロジェクトの構成員である社会福祉法人名北福祉会の60年を超える地域住民との協同の歴史について理事長の佐藤さんに講演をしていただきました。

あいにく、佐藤理事長がインフルエンザに感染され、リモートでの講演になったのがとても残念でした。

講演後、名北福祉会の生き字引からと、上飯田地域の郷土史を研究されている方からのお話を聞き、中京大学の伊藤葉子教授の名北保育園があって、働き続けられ、今の自分があるという話に、昔も今も、ずっと働く者の砦としての運動が続いていることに感動しました。この学習で多くの気づきをもらいましたし、「運動こそ組織の発展のかなめ」と確信しました。

こんなこともやっています

「一人の困りごとをみんなの困りごとに」
地域を支え、地域から支えられる法人を

佐藤理事長の講演
「ひとりぼっち」をつくらない地域をめざして

初めに、名北福祉会の60周年を記念して製作された動画を見せていただきました。

高度経済成長が始まる頃の1960年代に紡績工場に働く女性たちが学びあいながら、働く者の権利を獲得しつつ、作ってきた町が上飯田地区である。今や600人の職員、3000人の関係者となる赤ちゃんから高齢者までも包摂する名古屋市内でも大きな組織の福祉法人になりました。

民主的福祉法人の核には「労働組合」があった。ドキュメンタリー映画「明日へ紡ぎつづけて」に詳しい。共同保育所から始まって、地域の困ったに応える運動と協同が「ひとりぼっちを作らない」へとつながった。保育から高齢者まで、誰も置き去りにしない街づくりとなってきた。

これからも地域住民の権利保障運動の歴史と理念、文化の継承に努力していきたいです。

参加者の感想より

北医療生協組織担当課　倉田真興

自主学習会に参加し、名北福祉会の歴史や上飯田地域について学びました。

紡績工場で働く女性たちの「子育てをしながら働きたい」という思いと、それに応えようとする地域の人たちの熱意が、保育所づくり運動へと発展したことが印象に残りました。一人ひとりの思いが重なり、時代の風潮をも乗り越える力となって、制度化や事業の実現につながったことに、地域の人たちの力強さを感じました。

上飯田駅から平安通駅までの約2kmに福祉施設が多くあるのも、個人の願いを地域全体の願いとして受け止め、力を合わせて実現してきた歴史があるからこそだと思います。

こうした住民同士のつながりや行動力が根付いている地域だからこそ「不思議な連帯地域」と呼ばれるのだと感じました。今回の学習会を通して、地域の人たちが思いを重ね、行動することが、地域の福祉を支える大きな力になってきたのだと学びました。



食堂開催日程

【上飯田】
めいほくわいわい食堂
みなみまち
福祉センター一階
11月11日（水）
17時30分～19時

【あじま】
あじまわいわい食堂
楠地区会館二階
11月14日（土）
11時30分～13時

【上飯田】
フードステーション
すまいるハートビル1階
11月8日（日）
10時～11時

発刊元：わいわい子ども食堂プロジェクト
構成団体：北医療生活協同組合・社会福祉法人・名北福祉会・暮らしと法律を結ぶホウネット

わいわい子ども食堂